



大門小だより

5月号

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子

平成31年4月26日

横浜市立大門小学校

新しい時代「令和」に向かって

校長 佐藤 峰子

4月1日、国民が期待する中で新しい元号「令和」が発表され、5月1日令和元年となります。「学校だより5月号」は、平成最後の発行となりました。

4月のテレビ番組・新聞等で、「平成」を振り返る特集が多くありました。番組の中の街頭インタビューで、「あなたにとって平成という時代はどんな時代でしたか」という問いかけがありました。編集されているとはいえ、実に様々な答えがありました。番組を見ながら、自分はどうか答えるかなと考えたとき、「変化と多様性」という言葉が浮かびました。「従来通り」とか「当たり前にある」と思っていたことが覆ったり問い直されたりということが多く、そこに多様性という見方を加えて考え、行動することを求められた時代だったと思いました。皆さんは、どのように感じられたのでしょうか。

新しい時代となる「令和」に寄せる思いや期待も多様だと思いますが、地球規模での「平和」や、子どもたちの健やかな成長への願いは、全ての人にあるように思います。

私たち教職員をはじめ多くの関係者が教育について語るとき、子ども一人ひとりを大切にするとか、子ども一人ひとりの個性を生かす、伸ばすという表現をよく使います。このことは、保護者の皆様の大切な、かけがえのないお子さん一人ひとりをしっかりと見つめ、指導していくことにつながっています。

「大切にすること」の一つに、学校や学級という集団の中で、子どもたちに様々な経験や体験をさせることがあります。そこには、多少の行き違いも生まれます。そして、そこに子どもたちの知恵が働き、課題を解決する力が育っていきます。

また、子ども一人ひとりの個性を生かす、伸ばすということを考えてみると、個性はその子なりのよさであり、その子らしさでもあります。ですから、個性とは他とのかかわりの中でより生き生きとしてくるといえます。自分とは違ったものの感じ方、生き方をしている多くの他の人とかかわり合っていくことで、個性を大切にすることにつながっていくように思います。

子どもにとって学校は社会です。その学校で、子どもたちは、自分とは異なる個性をもつ友達と出会うことで、人間的に鍛えられていきます。一緒に笑い、ときにはけんかをしながら、折り合いを付けることを学びます。自分の周りには、自分とは違う様々な人がいること、互いに支え合いながら生活していることに気づき、精神的にも成長していくのです。令和の時代の日本は、今以上に多様な国の人々が暮らし、働く国となっています。今以上に多様性を認め合い、互いによりよく生きるための環境を、ともにつくっていくことが望まれます。

明日からの10連休で、子どもたちが学校とは違った体験をし、様々な出会いがあることを願っています。そして5月7日に、子どもたちが登校してくることを、楽しみに待っています。